

◆生育状況について

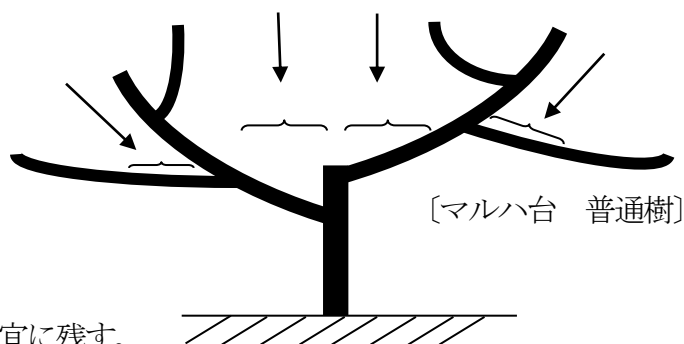
果実肥大は平年並みからやや大きい。いよいよ早生種の収穫が始まる。

◆当面する重点作業について

1. 見直し摘果を実施し、品質向上を図る。
2. 土壌が乾燥すると果実肥大への影響や日焼けを助長するため、かん水や葉面散布などの対策を実施する。また、草丈を長すぎず、短くしすぎないようにする。また、多雨による根痛み対策として、排水対策に努める。
3. 徒長枝切り、支柱立てを行い、受光体制、薬剤の掛かりやすい、風通しのよい状態にする。
なお日焼対策として、葉摘みや支柱立ては、果実温が十分に上がった午後から実施すると共に、徒長枝の切りすぎ、葉の摘みすぎに注意する。
4. 鳥害・ヤガ対策を行う。
5. ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草(刈取り)を実施、雑草対策をする。
6. 降雨続く、降雨時間が長い場合は、炭疽病などの発生が心配される。また、スモモヒメシシクイ対策を含め、薬剤散布は散布間隔に注意し、適期に薬剤散布を実施する。
7. 早生種の収穫を食味確認し、未熟、過熟ならないよう適期に行う。

◆新梢管理について

1. 主枝、亜主枝や側枝基部の徒長枝（新梢）は全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。
⇒ 計画的に切り（欠き）取る。
2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。
お盆の頃に切り取る。
3. 殺ダニ剤散布に合わせ、徒長枝（新梢）の処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。
4. 図の矢印部分（主枝・亜主枝の基部）の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

- 1. 使用時期：第11回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
- 2. 使用資材：調合量1000当り

【品質向上対策】

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g



【カルシウム欠乏対策】

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットII	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

◆第11回薬剤散布について

- 1. 散布時期：8月5日（水）～9日（日）

実際散布月日 月 日
- 2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000当り・10a当り散布量：6000以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
エクシレルSE	5,000倍	20ml	前日	シンクイムシ類・ハマキムシ類・キンモンホソガ
オーソサイド水和剤80	800倍	125g	前日	黒星病・斑点落葉病・すす斑病・すす点病・輪紋病・炭そ病
オマイト水和剤	750倍	133g	3日	ハダニ類

- 3. 散布上の留意事項
 - 1) 果面の汚れ防止とハダニ類への効果を高めるため、「展着剤」を機能性展着剤スカッシュ 1,000倍（水1000当り100ml）に代えて使用してもよい。
 - 2) オマイト水和剤は、高温時散布は薬害の発生が心配されるので避ける。

◆炭そ病対策特別薬剤散布について

- 1. 散布時期：第11回・12回中間

実際散布月日 月 日
- 2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000当り・10a当り散布量：5000以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
オーソサイド水和剤	800倍	125g	前日	炭そ病・褐斑病

- 3. 散布上の留意事項
 - 1) 降雨が多く、炭そ病発生が心配される場合、実施する。

◆サンつがる収穫前管理について

着色には、夜温18℃以下2日以上、果実糖分11度以上（糖度より温度が優先）が望ましい。
葉摘み、玉回し 早生種は、収穫7～14日前から開始が目安。

- 1) 高温乾燥により、日焼け発生が多く見られているため注意する。日当たりの良い部位（特に南～西）はあまり実施しない。日当たりの悪い部位、曇天が続く場合は、着色のため行う。
- 2) 実施する場合は、乾燥が日焼けを助長するため、かん水を行って土壌水分を高めておき、果実温の高まった日中に行う。
- 3) 日焼け果は、むやみに除去しない。除去する事により、枝が上がり等新たな日焼け果が発生する場合がある。腐敗しなければ、収穫期まで、樹上に置いておく。
- 4) 実施方法は、肩に着色し、葉影がみえるようになったら、果実に密着している果そうの葉を軽く摘む。葉でデンプン（糖度）とアントシアニン（赤い色素）を作るため、強い葉摘みは、光合成が劣り、かえって着色が悪くなり、日焼けを起こす。特に新わい化・高密植栽培では影響が大きい。片側の着色が、半分位着いた時点で玉回しを行うと色戻りが少ない。
- 5) 病害虫対策として、炭そ病・輪紋病・シンクイムシ類は、発見次第除去し、処分する。

◆サンつがる収穫出荷会講習会開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月 7日	金	午後 2：00	篠ノ井 篠ノ井西部流通センター	徳武・佐藤
			更北 真島フルーツセンター	根津
8月10日	月	午前11：00	若穂 若穂果実流通センター	寺澤